令和８年度生駒市立病院管理運営協議会第１回会議録

■　日　時　　令和８年８月２５日（火）午後２時００分から午後３時１５分まで
■　場　所　　生駒市立病院７階 講堂・交流センター
■　出席者

(1) 会　員	会長	生駒市長	小紫　雅史
	副会長	生駒市立病院　　院長	遠藤　清
	医師会等医療従事者	一般社団法人奈良県病院協会 理事 奈良県西和医療センター　院長	土肥　直文
	公募市民		玉井　得雄
			岡島　保弘
			中西　枝緒里
	公募市民	東地区自治連合会　会長	松井　邦友
		東生駒自治会　会長	植田　美佐

(2) 事務局　【生駒市】　小紫市長、岡村子育て健康部長、井川地域医療課長、天野課長補佐、奥野主幹病院事業推進係長兼務、森主任
　　【指定管理者】　宮原看護部長、金澤事務部長、岸田顧問

■　傍聴者　　２名
■　会議の公開・非公開の別　　公開
■　会議の内容

【事務局（市）】定刻になりましたので、ただいまから「令和８年度生駒市立病院管理運営協議会第１回会議」を開催いたします。

本日の会議は、萩原会員、中井会員が所用のため欠席されていますが、過半数の会員にご出席いただいておりますので、「生駒市立病院管理運営協議会要綱」第６条第３項の規定により、会議は成立しております。

また、同要綱第７条の規定により本会議は公開としております。なお、会議録作成のため録音させていただいておりますので、ご了承の程、よろしくお願いいたします。

次に、本日の配布資料等について確認させていただきます。

＜配布資料の確認＞

●会議次第
●令和７年度　生駒市立病院　実施状況調査報告書(案)
●会員名簿
●生駒市立病院管理運営協議会要綱

をお配りしています。

事前にお配りしました資料に訂正箇所がありましたので、改めて机の上に配布させていただきました。

令和７年度　生駒市立病院　実施状況調査報告書(案)につきましては、８ページ　事業報告の補足説明の外来表中、糖尿病内科の延べ人数に入力誤りがありましたことから１，１１１に、計の数値を１０９，３８８に修正させていただいております。

会員名簿の中井会員の職名等欄におきまして、「こども支援センター」としておりましたが、正しくは、「生活支援センター」です。大変失礼をいたしました。

生駒市立病院管理運営協議会要綱を配布資料に加えさせていただくこととしましたので、同要綱と配布資料を記載していますことから会議次第につきましても、机の上に配布させていただいております。お手数ですが、差し替えいただきますようよろしくお願いいたします。

本日の会議から、地元自治会を代表する者としまして、東生駒自治会　会長　植田　美佐　様に出席いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

生駒市立病院管理運営協議会は、市立病院の管理運営について会員の皆様方の意見を反映させることで、健全な管理運営及び市民参加の病院を実現することを目的として開催されます。

本会議において、皆様からのご意見を求める事項は、生駒市立病院管理運営協議会要綱に定められており、頂いたご意見を元に、ＰＤＣＡサイクルを意識した市立病院の継続的な業務の改善及び健全な管理運営を図って参ります。

それでは、「案件」に移らせて頂きます。以後の進行につきましては、要綱第６条の規定により、会長が議長となりますので、小紫市長、よろしくお願いいたします。

【小紫会長】本日の会議は令和７年度の生駒市立病院の実施状況調査報告書についてですが、昨年度どういう病院運営をされたかをご説明し、皆様からご意見をいただき、令和８年度の運営を実施し、また令和９年度どういうことを計画に生かしていくのかという趣旨で開催をしています。

昨年度の市立病院が開院１０周年を迎えたことで式典等行い、色々な計画、ビジョンを作らせていただきましたが、次の１０年が正念場だと思っています。指定管理者である医療法人徳洲会様、地域の皆様関係者の皆様、市の職員も含め全員が頑張った１０年でした。救急医療、周産期医療、新型コロナウイルス感染症の対応等、様々な形で地域医療の柱として頑張っていただきました。色々な課題も残っていますし、次の１０年の役割をしっかり担っていくことを考えたときに、令和８年度、９年度どうしていくのかを考える大きな１１年、１２年の節目だと思っています。そのためにも令和７年度１０周年には、どういう運営がなされて、課題は何か、どういうところをどう伸ばしていくのかをご意見いただきたいと思います。

それでは、案件「令和７年度　生駒市立病院の実施状況調査報告書（案）について、事

務局から説明をお願いします。

【事務局（市）】それでは、令和７年度生駒市立病院実施状況調査報告書（案）についてご説明申し上げます。1枚めくっていただき、目次をご覧ください。

１ページから８ページには診療科目、病床数、人員体制、患者数の基本項目を、９ページ以降は病院事業計画のコンセプトごとに区分して記載しております。

では、１・２ページをお願いいたします。

まず、表の見方ですが、表の一番左端が病院事業計画の欄、右に向かって順に令和７年度の事業計画、事業報告、事業報告の補足説明、右端が評価・課題の欄となっております。

まずは、事業報告と補足説明について指定管理者から、続いて、評価・課題について生駒市から説明させていただきます。それでは、指定管理者から説明をお願いいたします。

【事務局（指定管理者）】

それでは、令和７年度事業報告についてご説明いたします。

１・２ページの「診療科目」です。

診療科目につきましては、糖尿病内科及び眼科を追加標榜いたしましたので、１９診療科です。また、令和７年度に実施した専門外来については補足説明欄の＜その他＞の表のとおりです。あと、毎週土曜日の外科に呼吸器外科専門外来を開設しています。

次に、３・４ページの「病床数」です。令和８年３月３１日現在の病床数は２１０床です。補足説明欄中段の表中にありますように、１日平均病床利用率が令和７年度は７８．１％、最大９５．７％となっています。

次に、５・６ページをご覧ください。「人員体制」です。

令和８年３月３１日現在の医師は常勤２６名となっています。

また、看護師は、１６９名、その他としまして、薬剤師、理学療法士、事務職員等を合わせて、１５５名、合計３５０名となっています。なお令和８年４月に約３０名の新入職を迎え入れています

令和５年度に協力型臨床研修病院の指定を受け、さらに医師の確保につながるよう基幹型床研修病院の指定に向けて引き続き取り組んでいます。

次に、７・８ページをご覧ください。「患者数」です。

入院患者数は、１日平均１６３．９人と、計画の１６５人と、わずかですが下回っていますが小児科・産婦人科の入院患者は増えています。

また、外来患者数は、１日平均２９９．７人と、計画の２９５人を上回っていますが小児科・産婦人科の外来患者は増えています。

８ページ補足説明欄にありますように、入院患者数の特徴的な点でいいますと、小児科・産婦人科の入院増加と糖尿病内科の開設も重なり、令和６年度と比べますと増加しています。外来患者数の特徴的な点でいいますと、糖尿病内科・産婦人科での各常勤医師１名の入職による増加となっています。

次に、９ページから１０ページをご覧ください。「質の高い医療の提供」です。

腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術等患者の身体への負担が少ない低侵襲手術に取り組みました。医療サービスについて、手術件数は全体で１，２２５件となり、診療科別は１０ページの事業報告の補足説明をご参照ください。なお、分娩件数については、２７０件となっています。また、公益財団法人　日本医療機能評価機構による「病院機能評価」の取得を機に、さらに質の高い医療提供を目指しました。

１１・１２ページをご覧ください。主要疾病４疾病ですが、がんについては、地域がん診療連携拠点病院と連携のもと、治療体制を確保しています。

脳卒中については、阪奈中央病院・近畿大学奈良病院・奈良県総合医療センター等との連携のもと、早期に検査、診断、治療できる体制を確保しています。

急性心筋梗塞については、奈良県総合医療センターと連携のもと、緊急の心臓カテーテル検査・ＰＣＩが２４時間３６５日可能な体制を確保しています。

糖尿病については、糖尿病内科を追加標榜し、かかりつけ医との連携のもと、治療を実施しています。

また、患者満足度の向上のため、入院・外来患者アンケート調査を実施し、アンケート調査結果については、市立病院ホームページに掲載させていただいています。

１３・１４ページをご覧ください。「医療における安全管理に対する取組」です。１３ページ右の事業報告及び14ページ事業報告の補足説明で実績の報告がありますように医療安全管理委員会、医療安全カンファレンスを開催するなど、インシデント・アクシデントに関する事例の分析などを行い、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めました。また、院内感染対策として、院内感染対策委員会を開催するとともに、ＩＣＴ合同カンファレンスにより、院内感染防止活動に取り組みました。

次に、１５ページから１６ページをご覧ください。「地域完結型の医療体制構築への寄与」についてです。「在宅支援機能の充実について」は入退院支援チームの推進、生駒市の入退院調整マニュアルの積極的な活用により、市内等の医療機関や介護事業者等との連絡調整と情報共有による円滑な入退院の推進を図りました。地域医療連携室において、紹介元の開業医が、紹介患者の電子カルテを閲覧できるスペースを設け、病診連携の促進と強化に努めました。

１７・１８ページをご覧ください。「周辺の他の医療機関との連携」です。

市が開催する、生駒市医療介護連携ネットワーク協議会、在宅医療介護推進部会に参加しました。

次に、地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、紹介された患者の受け入れに努めました。また、紹介を受けた患者については紹介元へ逆紹介することに加え、紹介を受けていない患者についても、患者の住居の周辺の医療機関などへの逆紹介に努めました。紹介率は４３．７％、逆紹介率は１８．７％でした。

次に、１９ページから２０ページをご覧ください。「救急医療の充実」についてです。

救急受入件数が3，０３１件、救急応需率は９６．０％となっています。補足説明欄です

が、救急車以外で診療時間外に来られた患者さんについては、ウォークインとして集計しており、４，０４１名を受け入れており、月平均３３６．８名となっております。

２１・２２ページをご覧ください。「救急に対する人員体制」です。夜間救急受入体制については、医師２名、外来看護師２名、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員それぞれ１名の当直体制を継続しています。また、休日夜間の診療レベルは、ＣＴやＭＲＩ、Ｘ線、血液等の諸検査及び緊急入院の対応が可能となっています。加えて心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術にも対応可能な体制を整えています。補足説明欄下段に記載していますが、厚生労働省の事業として市が開催した「在宅医療・救急医療連携にかかる調査・セミナー事業」に、看護師及び救急救命士が出席しました。

次に、２３・２４ページをご覧ください。「小児医療の充実」です。北和小児科二次輪番体制へ、上半期は月２回、下半期は月２回参加しました。なお輪番当直日の患者数について２４ページ事業報告の補足説明をご参照ください。令和６年度に比べ増加しています。

次に、「災害時医療の確保」です。４月２５日、１２月２６日に消防訓練を、９月１９日に防災訓練を実施しました。令和７年度の事業報告ではありませんが、「災害時医療の確保」に関連する事項ですので、報告させていただきます。

熊本県熊本地方で発生した地震を受け、本市における災害発生時に備えるため、生駒市防災担当課との要請を受けて病院前救護所の設置運営の訓練を、例年実施している病院の防災訓練に盛り込んで９月２５日に実施することとしています。

次に、「予防医療の啓発」です。疾病予防機能の強化として、医療講演会を７３講座開催し、２，３８７名に参加いただきました。また、どこでも講座・出前授業のお申込みが８講座あり、５２６名の参加がありました。健診については、補足説明欄に記載していますように、８，７９９件となっており、前年度と比較して２７９件増加しています。

次に、２５・２６ページをご覧ください。「市民参加による運営」です。生駒市病院事業推進委員会と本管理運営協議会等を通して、市民等のご意見をお聞きしていることに加え、健康フェスティバル等を開催し、病院に親しみを感じてもらう場を作りました。６月１５日開催の生駒市立病院開院１０周年記念イベントに、延べ２，２００名の方に参加いただき、生駒市立病院をより知っていただく機会となりました。また、市が策定にあたって開催した「医療のまちづくりビジョン策定懇談会」に、遠藤院長が参加しました。

次に、「環境に配慮した運営」です。市の環境マネジメントシステムのエコオフィスの取組として、資源ごみの分別回収を強化するとともに、院内での省エネルギー化に努めました。

最後に、２７ページをご覧ください。令和７年度の収支についてご説明します。

医業収入と医業費用を差し引いた医業利益は、３億９，８８１万９千円であり、計画に対して１億３，９８１万９千円のプラスになっています。医業利益からその他費用、医業外収益、医業外費用を差し引きした経常利益については、３億９，９０５万円であり、計画に対して１億１，７０５万のプラスとなっています。

説明は以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（市）】それでは、１・２ページをお願いします。「診療科目」につきましては、課題としまして、「生駒市医療のまちづくりビジョンに掲げた社会変化や課題への具体的な対応に向け、生駒市立病院として取り組む診療体制を検討していく必要がある。」としています。

次に、３・４ページの「病床数」につきましては、評価としまして、「市立病院の設立目的である市内の小児医療の充実のため、北和小児科二次輪番体制へ令和３年１０月以降参加している。」ことと「令和６年度に引き続き、７５％を超える病床利用率を維持している。」としています。

５・６ページの「人員体制」につきましては、「協力型臨床研修病院の指定を受け、令和７年度以降の医師の確保に繋がるよう準備している。」と評価しています。

課題としましては、「入院医療を充実させるため、引き続き不足する内科、脳神経外科、整形外科の常勤医師を確保する必要がある。」と、「増床にする病床の運用開始に向けて計画的な人員体制の整備が必要」としています。

生駒市立病院の増床についてですが、7月１４日付で皆さまにお知らせさせていただきましたとおり、奈良県から病院開設許可事項変更許可申請に対して変更許可をいただき、４３床増床、許可病床数合計２５３床となりました。

しかしながら、今般の物価高騰が建築資材にも大きく影響があったことから、令和８年度中の竣工が困難な状況となりましたことから、令和９年度中の竣工を目指してまいります。

７・８ページの「患者数」につきましては、評価としまして、「新型コロナウイルス感染症対応や救急受入などの市立病院のこれまでの取組により、入院患者数及び外来患者数が増加している。」ことと、「ホームページやＬＩＮＥによる病院に関するデジタルでの情報発信、病院だより発刊による紙媒体での情報発信、どこでも講座、出前授業などを通じて地域と積極的な関わりを持つようにしていることで、生駒市立病院を知ってもらう取り組みを通して患者数の増加につなげている。」としています。

９・１０ページの「質の高い医療の提供」につきましては、評価としまして、「市の産後ケア事業に参加することで、産後の授乳指導・育児相談や母子のケア等を行い、母親の育児等を支援している。」や、「リスクある分娩は妊婦検診時から小児科医と情報共有し、小児科医立ち合いのもと分娩を行うなど産科と小児科が連携することで、安心して出産できる体制が整備されている。」としています。

課題としましては、「腹腔鏡下手術の件数が増加傾向にあるが、今後もさらに患者への身体的負担が少ない低侵襲手術を推進する必要がある。」としています。

１１・１２ページをお願いいたします。「がん」、「脳卒中」、「急性心筋梗塞」及び「糖尿病」の主要４疾病について、十分な連携が取れていることを評価とさせていただいています。

課題としまして、「医療機関同士がそれぞれの強みを生かして、地域全体として完結し、

より質の高い医療を提供できる体制となるよう近隣の医療機関との連携を引き続き進めていく必要がある。」としています。

１３・１４ページの「医療における安全管理に対する取組」につきましては、評価としまして、「合同カンファレンスに参加し、他の病院と感染防止対策についての情報収集や情報共有や意見交換を行うことで、院内感染防止に取り組んでいる。」ことと「医療安全管理委員会や医療安全カンファレンス、勉強会などが計画通りに行われており、医療安全に関する体制が整備され、事故防止に向けた継続的な改善活動が行われている。」としています。

また、課題としまして、「奈良県をはじめとする関係機関と情報交換しながら、院内における感染管理を徹底するなど、新興感染症の感染拡大に備えておく必要がある。」としています。

１５・１６ページの「地域完結型の医療体制構築への寄与」につきましては、「医師、専任の看護師、専従のメディカルソーシャルワーカーによる入退院支援チームの活動や入退院調整マニュアルの積極的な活用により、入退院支援加算件数が増加しており、退院後も切れ目のないケアを提供できている。」ことと、「地域の医療機関への医療教育プログラムを提供し、地域の医療従事者の知識や技術の向上を支援している。」をあげています。

課題としましては、「今後、在宅や施設で療養する高齢者の増加が見込まれる中、症状増悪時の速やかな入院や退院時の在宅医療への移行等でのスムーズな対応が求められている。そのためにも、地域の医療機関や介護・福祉施設との交流をより活発に進め関係を強化する必要がある。」としています。

１７・１８ページにつきましては、評価としまして、「地域医療連携室の職員が地域の医療機関を毎月訪問し、診療内容等の周知の取組が強化されていることにより、ＭＲＩやエコーの利用件数が増加傾向であり、地域医療連携の推進につながっている。」ことと、「患者の状況や診療結果の報告、退院時に紹介元へ戻す旨の報告等が徹底されている。」としています。

課題としましては、「逆紹介率を向上させるため、地域の医療機関との連携を強化していく必要がある。」としています。

１９・２０ページの「救急医療の充実」につきましては、評価としまして、「２４時間３６５日救急患者の受入体制を整え、発熱患者を断らない方針のもと、救急応需率は高い数値を維持している。」こと、「市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加には至っていないが、輪番病院で受け入れできなかった患者の受け入れも可能な限り対応するなど、輪番体制のバックアップとしての役割を果たしている。」等としています。

課題としましては、「救急患者の転送率について、患者の症状によりやむを得ない場合もあるが、市立病院の設備で対応可能な患者はできる限り完結できるよう、医師等の人員体制を強化する必要がある。」としています。

２１・２２ページをお願いします。「救急に対する人員体制」と「診療科毎の対応レベ

ル」になります。
　評価としまして、「当直可能な常勤医師２名、看護師、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員の２４時間３６５日の救急受入体制が維持されている。」ことと「２４時間３６５日、病院事業計画に掲げるＣＴ、ＭＲＩ、Ｘ線、血液等の諸検査及び緊急入院に対応可能な体制が継続されている。」としています。
「在宅医療・救急医療連携にかかる調査・セミナー事業」における評価としまして、「市立病院の地域医療連携室や救急部門の職員が出席し、市立病院での状況説明や意見交換を行うことで、医療機関との連携を高めることにつながっている。」としています。
　課題としましては、「整形外科・脳神経外科の常勤医師の確保・増員に努め、外傷患者等への救急受入及び処置が可能な体制を整備する必要がある。」としています。
　２３・２４ページの「小児医療の充実」につきましては、
　評価としまして、「産科と小児科を有していることから、産科での出生児の診療や１か月健診は小児科が担当している。また、胎児へのリスクの高い分娩には小児科が立ち会うなど、産科と小児科が連携することで、安心して出産できる体制が整備されている。」等をあげています。
　次の段の「災害時医療の確保」については、評価としまして、「救護所開設検討会議や近畿大学奈良病院の災害訓練に参加することで、市立病院が市内の医療機関と共に災害時医療提供に向け、検討を進めていく機会となった。」としています。
　課題としましては、「防災訓練を行う際には大規模災害を想定し、市災害対策本部、医師会災害対策本部や地元自治会と連携協力体制で実施する必要がある。」としています。
　下段の「予防医療の啓発」につきましては、評価としまして、「医療講演会やどこでも講座・出前授業の開催に積極的に取り組み、実施件数や参加者数の大幅な増加につながっている。」ことと「健診体制の充実をはじめ、ドック受診者が少ない時期に開院１０周年を記念した人間ドック受診キャンペーンを展開するなどの取り組みにより、市民健診の受診者数が増加している。」としています。
　課題としましては、「医療講演会やどこでも講座・出前授業について、参加者の幅も広げていくため集客力が高い施設に出向くなどの工夫も行い、市立病院を知らない市民へのアプローチを進めていく必要がある。」としています。
　２５・２６ページの「市民参加による運営」につきましては、評価としまして、「退院時に市立病院が独自で行う患者アンケートを実施し、患者の意見を集約している。この意見を参考にして入院される方が良好な環境で過ごせるように努めている。」や「生駒市立病院開院１０周年記念式典を市と協力して、開催し、１０周年を迎えることができた感謝と市立病院のことについて多くの市民に知ってもらえる機会となった。」としています。
　課題としまして、「健康フェスティバルなどのイベント等、より多くの市民に生駒市立病院を知っていただく機会づくりに今後も取り組んでいく必要がある。」としています。
　その下の段の「環境に配慮した運営」については、御覧の通りです。
　以上です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【小紫会長】それでは、項目ごとに質問ご意見をいただき、最後に全体総括的なご意見やご質問いただく形で進めていきたいと思います。
１・２ページの「診療科目」で、何かご質問等いかがでしょうか。

【玉井会員】診療科目ではなく、診察日のことですが、昨年度から遠藤院長が日曜診療を開始されて、市民や患者にとっては、平日の通常の診察時間で来院できないとなると、自覚症状を抱えて何とかしたい人にとっては、日曜日に直々に診ていただけ、総合的に判断いただける機会があるのは非常に大きなことだと思います。院長ご自身にとっては体力的にも労働時間的にも大変だと思いますが、改めて日曜診療をしようという動機や思いをお聞かせいただきたく思います。この１年半の中で、患者の年齢層的な部分や、相談、病状等の傾向や特徴を教えていただきたいと思います。

【遠藤会員】日曜診療ですが、日曜日にしか動けない人たちがいるのではないかということで始めたのが一つの理由です。もう一つは、医療機関だけではなく、土日休みの印象がありますが、病院はずっと患者がおられます。大半が日曜日休みだと、患者はとても不安になるので、医者は出勤してしまいます。例えば、金曜日が休みだと、診てもらえる医師が多くいます。大半が休む日を作ると、当直の負担も大きいし、その後患者に何かあったときに休みでも出てきてしまう医師が多いと思っていました。発想を変えてみて、日曜診療をやりだしたのはこの二つの目的がありました。
日曜日に行きたい人は若い人が多く、定期的な検査とお薬だけで来る方は、なかなか仕事を休んで来ることができません。夕診もありますが、担当医もその日によって変わりますし、５時から７時だと中途半端な時間で、働いている人は来ることができませんが、日曜日は来やすいようです。わざわざ休んで来られる方も平日はいますが、日曜日は空いているので、普段４０人ぐらいのところが、日曜日は１５人ぐらいしか来ないので、そういう意味では空いていますし、検査が２４時間ＭＲＩもＣＴも撮れますので、日曜日に来たから検査ができないということはありません。そういう意味では最初からＣＴもＭＲＩも日曜日も定期の検査を入れるようにしてあります。
紹介で来て、そこに入っている方もおられたりするので、自分ではある程度成功していると思いますが、少し宣伝が要ると思います。初めは私だけでしたが、今は産婦人科も同調していただいています。お母さんたちが、ご主人が休みの日しか子供を預けられないことも多いと思うので、産婦人科の日曜日を始めました。少しずつ科を増やしていければいいと思います。日曜日に働いているから働きすぎにならないように平日に休んでもらう等の仕組を作っています。今、日曜日の診療だけでなく、令和８年度から定期的に午後２時から午後３時に講演会をしていて、胃や膵臓等の話ですが、胃の大きさや膵臓の形の勉強会をしています。最初は５、６人でしたが、リピーターも多く、今は３０人ぐらいの方たちが非常に平易な感じで、聞きやすいように絵を描いたりしてやっています。コンセプト

は皆さんの医療知識が高くなれば、的確な医療を受けることができ、早くに医療を受ければ、治療が遅れるほど医療費はかかるので、早くに治療はした方がいいと思ってくださるように、上手くいけばいいと思います。

【玉井会員】「日曜日に病院や診療所は閉まっている」という感覚がありますので、開けて診察してもらえるというのは、一つの大きな病院の特色にもなると思いますので、そういうことを通して市民や患者の信頼が上がってくると思います。大変だと思いますが、ぜひ引き続きよろしくお願いします。

【小紫会長】大変意欲的でありがたい取組だと思います。
　他にいかがでしょうか。順次進めていきたいと思います。
　３・４ページの病床数ですが、お手元に生駒市が記者発表したときの資料をお配りしています。主に令和７年に認められた２０床は主に子どもの科です。追加で２３床は主にシニアの方、在宅医療や各福祉施設の対応や、早期診察への対応で２３床ということで、合計２５３の病床が確保できました。
　病床数はいかがでしょうか。病床利用率も少しずつ上がっている話もありました。
　５・６ページの人員体制はいかがでしょうか。
　７・８ページの患者数はいかがでしょうか。
　９から１４ページ、質問高い医療の提供はいかがでしょうか。
　１５から１８ページ、地域完結型医療体制構築への寄与はいかがでしょうか。
　１９から２２ページ、救急医療の充実はいかがでしょうか。
　２３・２４ページの小児医療の充実、災害時医療の確保、予防医療の啓発はいかがでしょうか。
　２５ページの市民参加による運営はいかがでしょうか。

【玉井会員】市立病院の情報発信、ＰＲですが、健康フェスティバルが毎年度実施されて、子供も含め家族連れが非常に多く参加されて、内容的にも非常に充実されていると思っています。
　広報ＰＲは、病院ホームページや紙媒体で、ＬＩＮＥは登録者を増やして多くの情報の発出をされています。医療講演では、以前は月２回だったのを、今は月４、５回に充実され、病院に関する色々な分野の話を、様々な職種の方々がご説明していただけることで、非常に楽しみで関心が高まってきています。資料からも、参加者もとても増えているように見えます。市の広報にも掲載がありましたが、リハビリ職業体験イベントを開催され、高校生をはじめとして若い世代の方々を対象に、医療従事者の職に関心を持ってもらうこと、また病院としては、将来の人材確保のこともあるのではないかと思います。加えて、遠藤院長が、日曜日に講演をされています。遠藤院長は講演ではなく、授業や講義だとおっしゃっていましたが、詳しくわかりやすくリアルな口調でおっしゃっていただけるから、

頭に入りやすく、またリピーターの声を大切にされて、翌月の話題についても、リクエストを聞いていただけるようで、８月は腎臓のお話でした。

私はこの運営協議会に参加させていただき約４年になりますが、病院のこのような情報が多く出るようになったことで、病院が非常にオープンになり、近い存在になってきたと心から思っています。それが、４，０００人のウォークイン外来を含め外来の患者数や、市立病院行けば何とかなるという信頼や期待を含めて高まっていると、改めてこの数字を見て思いました。

出前授業に関してですが、寿大学で一般教養という講座があり、市民講座を兼ねた形で、たけまるホールで多くの方が聞きに来られる教養講座をされていますが、例えばそのような所に院長が出られて、市民の命と健康を守るために、病院としてどのような役割を果たしていることや、今よく言われている平均寿命と健康寿命との差等、色々医療に関するお話を、大勢の前でお話いただければと希望しています。可能であればよろしくお願いします。

【小紫会長】生駒市ではシニアの「いこま寿大学」がありまして、全員が共通して受講される協力講座が年に何度かあります。市立病院の遠藤院長から医療の話をしていただければ、とてもありがたいことです。たくさん聞きたい方ももいらっしゃると思いますので、生涯学習課に提案させていただき、調整したいと思います。

【事務局（市）】院長にもコロナ禍の期間に一度オンラインで出演をしていただいたことがあり、毎年病院からしていただくわけではありませんが、生涯学習課とお話させていただく機会ができたらと思います。

【小紫会長】他にいかがでしょうか。

【岡島会員】市民の皆さんが待ちに待った健康フェスティバルが今年度も予定されているのかを聞きたいのと、たくさんの子供たちが参加しているのをいつも見ますので、このフェスティバルをきっかけに、医者や看護師を目指す子が生まれるきっかけになればいいと思っています。そういうきっかけを作っていただける病院や医療以外に、市立病院としての立ち位置を考えてやっていただいていることに大変感謝するとともに、毎年継続していただきたいです。

フェスティバルに加え、生駒市立病院には産婦人科もあり、強化してやっておられると思いますが、これから少子化が進む中で、生駒市の子ども人口を増やす取組として、色々な世代のご夫婦が、出産に関して不安を抱えていることを聞くことがありますが、こういうフェスティバルのような家族がより集うところに、その不安を取り除けるようなものがあればいいと思います。

高齢というところからくる不安や色々なことを感じながら、躊躇して年だけとっていく

日々の中、若い子なら費用的なことで、踏み出せていない話もよく聞きます。そういう不安を取り払い、不安が少しでもなくなり、子どもを育てるより良いまちになるというものが、市立病院をきっかけになればいいと感じています、また何かあれば、よろしくお願いします。

【小紫会長】生駒市の医療ビジョンを見ていたのですが、色々な社会が変化をする中で、医療を取り巻く環境も変わり、医療ビジョンは市立病院だけではありませんが、どういうことを生駒市の医療としてやっていくか等を考えたときに、一番初めに出てくるのが少子高齢化で、それに対応するための取組で一番初めに出てくるのが子どもです。具体的には少子高齢化、支援の必要な子どもの増加、また心配に思われる方が非常に多い中でどう対応していくのかということで、大きく三つあります。

まず、こどもを安心して産み育てやすい医療環境の整備があります。分娩機能の拡充や産後ケア事業の拡大、特定妊婦、生活困窮や産後鬱などの課題を抱えるケースへの支援、妊娠出産に係る経済的支援等があります。

次に、子育て環境の充実のため市内病院と市内小児科医との連携ということで、小児科二次医療提供体制の充実、小児科患者の増悪時の入院受け入れ等バックアップ機能の充実、学校医や園医への市立病院からの小児科医の派遣があります。

三つ目が発達障がい,神経発達症に対する対応の施策としましては、作業療法士を入れる等色々なことをして、生駒市役所の中でも各課しっかり力を合わせて神経発達症の対応をしていこうという話をしています。その中でも医療の部分、福祉、学校教育や家庭のサポート等の切り口はありますが、色々な分野で医療的な観点も含めご示唆いただき、教えられ、発達障がいの関係を認識いただいています。ビジョンをどう具体化するかが、これからの腕の見せ所だと思います。市としては力を合わせ、ビジョンに基づいて、どういうことができるのかを具体化していきたいと思います。

【遠藤院長】もちろんフェスティバルはやります。本当に楽しいので皆さん来ていただきたいです。コロナ禍が終わり、フェスティバルをすることになった時に、楽しい催しをするのに、吉本の芸人さんを呼んだ結果、大成功して、それ以来ずっとやっています。

去年、良かったのは、話をしながら説明できたことです。例えば、抗がん剤や早期発見を話し合ったりしたのもすごく良くて、内容がよく理解できたと好評でした。

1人で話すよりも、掛け合いで話すのはこちら側もより話しやすくなるし、皆さんも聞きやすいと思います。また今年も同じような形をしたいと思います。フェスティバルは、一つは病院を知ってもらうのが大事ではありますが、私たちも本当に楽しく、たいへん上手な演奏を聞かせていただいています。芸人さんたちは、その道のプロはすごいという印象を持つほど優秀です。

それと普段は病を持った人が多くいますが、健康な方がたくさん来られると、こちらも健康になる感じがするので、そういう形もすごく良いです。今年も良いものができると思

いますので、皆さんに宣伝していただいて、たくさん来てもらえればと思います。期待してください。

【小紫会長】他に２５・２６ページはいかがでしょうか。
　最後、収支のところでご意見いかがでしょうか。

【玉井会員】収支のことですが、テレビや新聞で、病院の経営はとても苦しく、赤字のところも非常に多いとよく拝見します。
　市立病院の場合、この会議で令和５年度から６年度の決算ぐらいから単年度の黒字はもとより、累積の赤字も解消したとお聞きしました。この間の入院や外来の患者の大幅な増加や救急の積極的な受け入れ、また先ほどの新型コロナウイルス感染症も含め、そういう感染症の臨機な対応が非常に大きいと思っています。
　一方で、それだけ医師を確保されてきているので、医師を始めとする医療スタッフの人件費の増や、様々な諸費用の高騰が、相当あるのではないかと思いますが、令和７年度の決算においても、事業計画を上回る黒字が確保されています。先ほど申し上げたように全国の病院は、公立の病院であっても赤字で、この先の運営が非常に厳しいということで、診療科目が削減をされる等、場合によれば閉鎖ということもよく拝見します。
　市立病院はおそらく入りを多く、出を少なくすることで相当な経営努力をなさっていると思います。黒字の要素を詳しく教えて欲しいことと、数字よりもどちらかというと、経営がこの様な黒字の状態で経営運営に極めて頑張っていて、健全な状態だということをもっと市民にアピールしていくのがいいのか、あまりこういう数字は見せない方がいいのか、その辺はいかがでしょうか。私自身は、経営が非常に安定していることをアピールされてもいいと思います。その辺のことを含めてお話いただければと思います。

【小紫会長】大変な経営努力があると思います。広報等で１年に１回出すことは特にないので、市でやっていることがあれば、後半のところからお願いします。市立病院もやっていること等の補足があれば後ほどお願いします。

【事務局（市）】年に１回、経営状況の報告と併せてこういうことをしています。ただ細部どういった工夫をされているかは、様々なイベントを通じまして周知させていただき、議会の方におきましても、この事業報告を９月の議会に報告させていただこうと思っていますが、そのタイミングでも必ずご質問をいただいているところですので、そういうところでご報告させていただく流れです。

【小紫会長】病院でやっておられることや、黒字に向けたご努力で差し支えないところもお願いします。

【遠藤会員】細かいところはわからないところもありますが、個人的に見ると不採算ではないですが、どうしても大きい病院は、一つの科の医師数が多くなります。

看護師数はいるのですが、残業時間が制限されているので、この病院の規模で、この医師数でやっていることがギリギリだと思います。そういうことも一つ大きな要因です。経営努力というところは、色々なことが本部のやり方に沿ってやっています。定期的に上がっていない部分や、弱いところは、少しテコ入れしています。または今回も外科の医師が辞めましたが、また入職があり、来年は手術ができる脳神経外科の医師が入ってきそうです。そういうことで少しずつテコ入れをしていくことでうまく回っています。

最大限に皆さんが働いてくれるので、この数字が出てきていると思います。最近１８０から２００ぐらいで回っていますが、看護師も含めた職員の負担が非常に大きいので、安いものだと思いますが、月５本ジュースを自動販売機で無償で飲めるようにして、「働かせている」とか、「働かされている」イメージを持たせないようにしながら、全員で働いて、この病院を良くするという気持ちです。

来年度２５３床という一つの区切りになります。今まで２１０床、混合病棟で４病棟ありますが、先月ぐらいから、外科と内科をはっきり分けました。その病棟のスペシャリティを上げていきたいと思っています。スタッフの教育もさらに進化させて、来年２５３床になったときに、確実に外科や内科にドクターも入ってくれば、その病棟に入って同じようにやっていくような流れにしたいと思っています。これまでできなかったのですが、２５３床という中堅少し上ぐらいの規模になってきたことで、病院そのものを変えていこうと思っています。

どのぐらいうまくいくかわかりませんが、脳神経外科で手術ができるようになると思います。そうなると、救急も今まで以上にもっとフットワークが良くなって、手術をすることで周りの医療機関にも負担をかけなくなります。色々な意味で地域完結型や、この病院での完結のものが増えていくことになり、逆にそれができないと２５３床を抱える意味がないと思っています。そういう意味でスタッフに発破をかけていますが、全員で覚悟しながら、２５３という数に向かっていきます。数字は後でついてくるので、うまくいかないかもしれませんが、赤字ではあまり意味がないので頑張っています。

【玉井会員】ありがとうございます。

【小紫会長】市長としても感謝申し上げます。

最後、総括的なご質問があれば、いかがでしょうか。

色々なご質問いただきましたことを踏まえながら、令和８年度の運営、令和９年度の事業にも反映させて、検討させていただきたいと思っています。

それでは令和７年度生駒市立病院の実施状況調査報告書につきましては、以上とさせていただきます。

案件としては以上で終わりですが、事務局や委員の皆様からご意見いかがでしょうか。

【事務局（市）】令和７年度の生駒市立病院の実施状況調査報告書につきましては、生駒市議会９月定例会で報告をさせていただく予定です。次回の会議につきましては、来年２月下旬から３月上旬頃に、令和９年度の事業計画について会員の皆様にご説明をさせていただきまして、またご意見を頂戴したいと思います。

【小紫会長】今まで参加していたのが２回あり、１回は市民さんや色々な方に意見を聞いたり、発信しました。今年度考えていることはありますか。

【事務局（市）】市民の色々な声を聞くところも含めて、今、病院と一緒にＡＣＰの啓発イベントをさせていただいています。今年度はすでに２回、春と７月末に開催させていただきました。病院のスタッフの皆さんがたくさん来ていただいて、色々なブースも設けて、ご説明をしたり、お話を伺ったりしています。またそういうことも踏まえて計画に生かしたいと考えています。

【小紫会長】ＡＣＰに関する登美ヶ丘イオンで開催してくれたイベントですね。色々な出前講座もしていただき、次回の令和９年度の事業計画の中でご意見を踏まえて形になるものがいくつかあれば、流れとしては美しいと思います。

ご意見いただき、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和８年度生駒市立病院管理運営協議会の第１回会議を終了させていただきます。ありがとうございました。